

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

11月号

平成30年(2018)11月 1日



自分の力で考えること

校長 市川 幸 男

秋も深まり、校庭の木の葉がゆっくりと色づき始めて参りました。気が付けばカレンダーも残り2枚となり、時の過ぎていくのがとても速く感じます。秋といえば、芸術の秋、スポーツの秋、そして読書の秋と、いろいろな冠をつけて表現されます。それは燃えるような夏の暑さも落ち着き、過ごしやすく、何をするにも向いた気候であるからとところから、いわれるようになったのだと思います。もちろんその中には「学問の秋」もあります。後期が始まって約1月、各教室からしっかりと学びの声が届いてまいります。提示された学習課題を理解・把握したのち、解決に向け、一人ひとりが真剣に考え、自分なりの取り組みや考えをもつ。千秀小学校では、この過程をととても大切に考えています。それは、人の考えを聞いて受け入れるという受動的な学びでなく、自分で考えるというまさに主体的な学びの場であると捉えているからです。もちろん人には個人差や得意、不得意がございます。なかなか問題解決に悩むところもあります。それでも示された課題の解決にすべての子が取り組み、何らかの考えをもてるように支援をしてまいりたいと存じます。

さて、先日、1.2年生と新江ノ島水族館まで遠足に行ってまいりました。1.2年合同ということで2年生がしっかりとリーダーをしていました。1年生に不安を持たせまいと、つないだ手に力が入っているのが、とてもほほえましかったです。それでもさすがに2年生、2度目ということもあって自信をもって、活動を進めてまいります。そんな中、一人の2年生に「どうして2年も同じ場所に遠足にくるの？去年と同じだから、もう全部見ちゃった。」と問われました。確かにこの子が言うように、2年生にとっては2度目であり、昨年と比べて展示物も、そんなに変わってはいません。「そうだね。じゃあ今日一日、つまらなかった？」と聞き返すと、「楽しかったよ。去年は2年生に引張られて回ったけど、今年は自分たちで考えて回れたし、1年生にいろいろ教えてあげられたから。」と自信をもって答えてくれました。この答えを聞いて、私は間違いなく、この子は遠足の目標を達成できていると嬉しく感じました。2年生だけでなく本校では4.5年生でも宿泊体験学習を2年続きの活動にしています。繰り返すことの意味は経験を生かした学びの場の提供でもあります。ともすると校外の学習となると、



「何を見た、何を体験した」に視点が行きますが、繰り返すことにより、体験した活動を振り返り、改善する具体的な場をもてます。かの2年生は、事前の取り組みで、「1年生にこんなことを教えたい。そのためにはこのようなコースで回るとよい。」といったことを、1年時の体験をもとに、しっかり考え、話し合ったに違いありません。冒頭で、すべての子が自分なりに問題解決に取り組むことの大切さをお伝えしましたが、遠足という体験的活動においても、同様の価値をもつ育成の場ととらえていけます。そして千秀小学校の児童は、その期待に見事にこたえてくれる子ども達です。とても豊かな気持ちになった秋の一日でした。